

◇2016年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)〈抜粋〉◇

この調査は2016(平成28)年度に実施された中学校の修学旅行に関するものである。

今回の調査では、国内修学旅行実施率は95.9%(前回調査95.2%)と、前回調査より若干上がった。旅行先や実施時期は、ほぼ例年のように戻ったと思われる。また、前回調査から震災の復興を目指し頑張っている東北地方へ目的地を変更した学校がでたり、ニューツーリズムの多様化が広がってきた様子が見え

アクティブ・ラーニングの充実に向け、事前・事後学習の取り組みがより重要になると考え、調査項目に加えた。

この調査は、全国の国立・公立・私立等の中学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

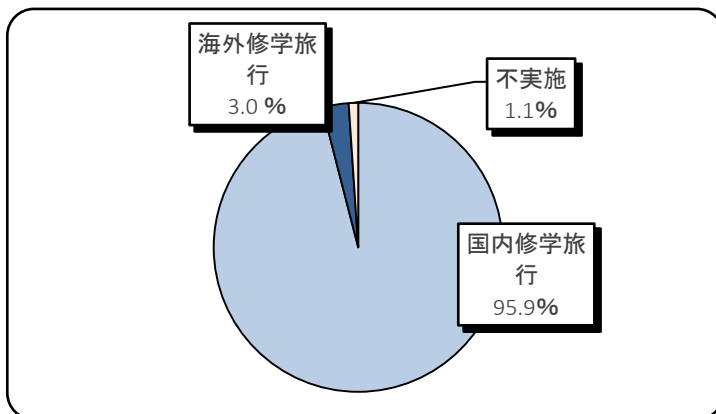
設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	73	9,745	735	10,553
抽出校数	73	2,160	735	2,968
抽出率%	100.0	22.2	100.0	28.1
回答校数	16	724	142	882
抽出校数に対する回答率%	21.9	33.5	19.3	29.7
全国校数に対する回答率%	21.9	7.4	19.3	8.4

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況 (2)不参加生徒の有無と理由 (3)実施時期 (4)実施学年 (5)保健指導のための引率者
 (6)旅行費用 (7)主な交通手段 (8)旅行内容「重点をおいた活動、旅行先、宿泊地・宿泊形態、見学先等」
 (9)班別自主行動 (10)体験学習 (11)防災(避難)訓練の取り組み (12)アレルギー対策
 (13)事前・事後学習の取り組み

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

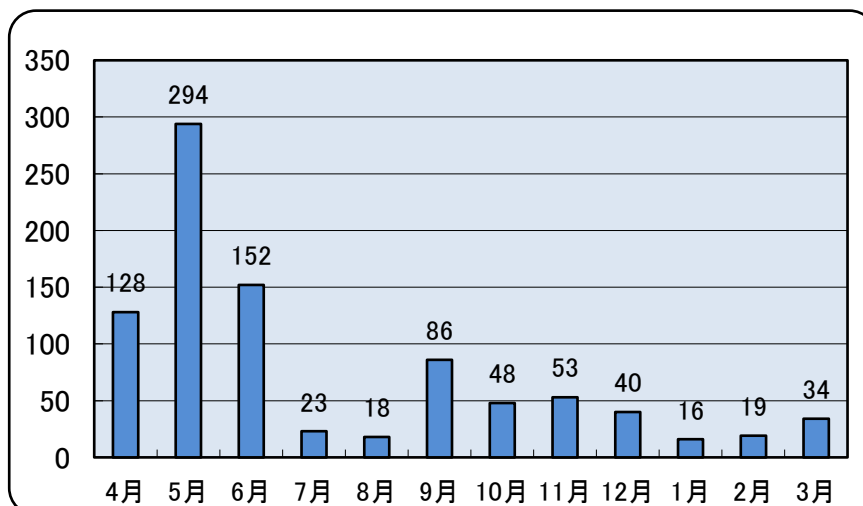
1 修学旅行の実施状況



回答のあった海外修学旅行も含めた実施率は98.9%で、前回98.5%より若干上がった。

また全体では、海外修学旅行の実施校の割合が前回調査3.3%から3.0%と0.3ポイント下がった。今回調査では、私立の海外の実施の割合が減ったことも要因となっている。

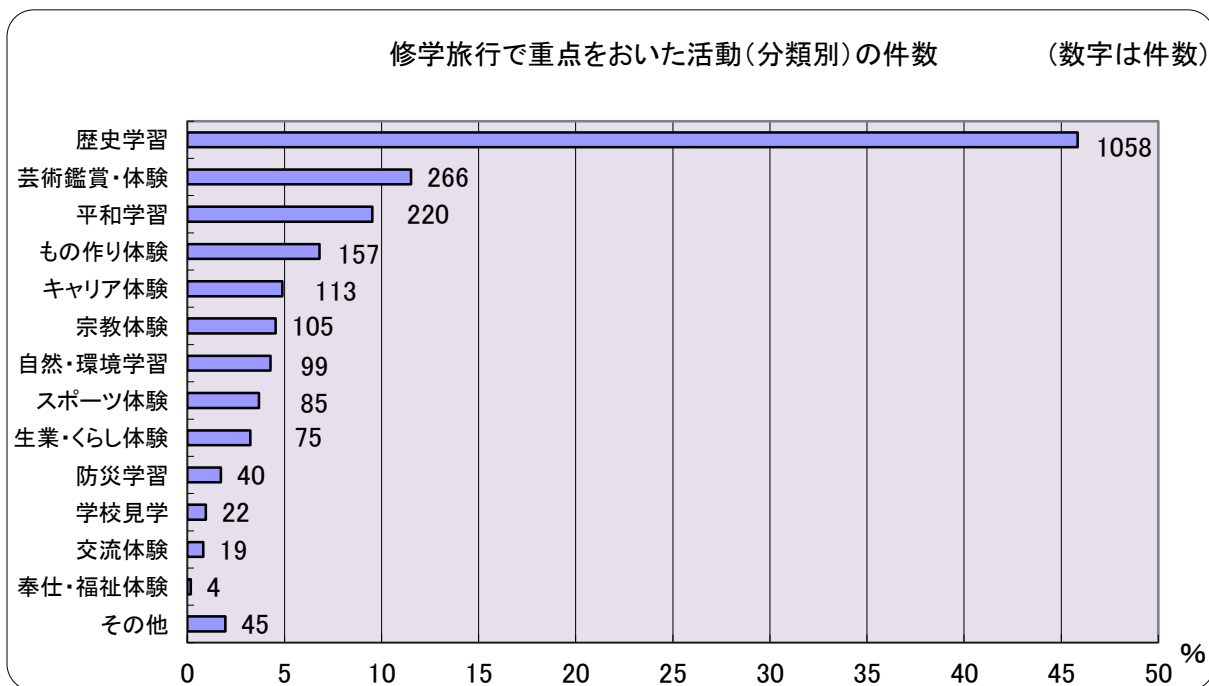
2 修学旅行実施時期



公立は、4・5・6月実施が69.9%(前回調査79.1%)で前回調査より9.2ポイント下がった。今回調査では、特に9月が4.0ポイントの増加が見られた。熊本地震の影響で春から秋への変更の影響と思われる。また3学期に実施している公立中学校は、すべて2年生で実施している。

私立は、9月から11月の秋の実施が全体の47.8%(前回調査40.9%)と多い。

3 分類別旅行内容



修学旅行で重点をおいた活動や目的が何であったかを割合に表した「修学旅行で重点をおいた活動(分類別)の件数」としてグラフに示した。

その中で、史跡・町並み・産業遺産・博物館等の見学などの歴史学習に重点をおくものが45.8%(前回調査43.8%)と毎年1位を占めている。ミュージカル・演劇・歌舞伎・文楽・能楽等の鑑賞、伝統文化・伝統芸能や祭り体験、美術館等の見学、コンサート・音楽鑑賞などの芸術鑑賞・体験が11.5%(前回調査10.7%)、平和学習が9.5%(前回調査9.5%)、伝統工芸・料理・食品加工などのもの作りが6.8%(前回調査8.2%)となった。また、職場訪問・職場体験、販売・商業体験などのキャリア体験が4.9%(前回調査6.5%)、宗教体験(座禅、法話、写経等)は4.5%(前回調査5.3%)、野外活動・環境学習などの自然・環境学習の分野が4.3%(前回調査4.2%)、スポーツ体験が3.7%(前回調査3.6%)となった。



ヨット体験(滋賀県)

(画像提供: 公益財団法人びわこビジターズビューロー)



ジップライン体験(福島県会津高原)

(画像提供: 東北観光推進機構)

4 旅行先ベスト20

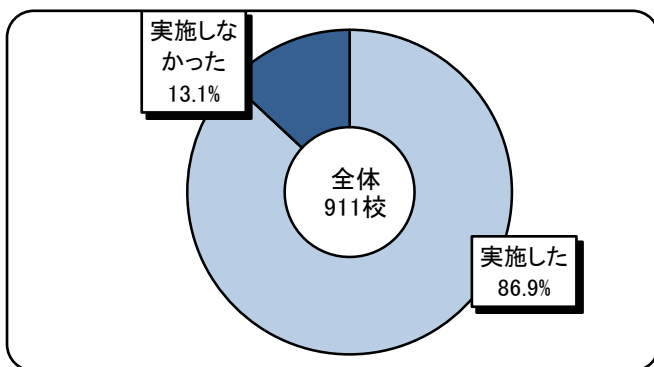
順位	旅行先	件数	構成比%
1(1)	京都	419	20.9
2(2)	奈良	353	17.6
3(3)	東京	216	10.8
4(4)	千葉	194	9.7
5(5)	大阪	163	8.1
6(6)	沖縄	82	4.1
7(7)	神奈川	64	3.2
8(9)	福岡	64	3.2
9(8)	長崎	60	3.0
10(11)	広島	58	2.9
11(10)	兵庫	42	2.1
12(13)	北海道	31	1.5
13(14)	山梨	24	1.2
14(18)	岩手	22	1.1
15(15)	長野	20	1.0
16(12)	熊本	19	0.9
17(20)	滋賀	18	0.9
18(28)	秋田	16	0.8
19(19)	佐賀	16	0.8
20(24)	青森	13	0.6
その他		111	5.5
合計		2,005	100.0

※ ()内は前回順位

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

その中で、今回調査で上位については大きな変動は見られない。7位までは前回調査と同じ順位になった。大きな変動として、岩手が前回18位から今回14位、滋賀県が前回20位から今回17位、秋田が前回28位から今回18位、青森が前回24位から今回20位に上がったことがあげられる。一方、震災の影響があったものの熊本は前回12位から今回16位と健闘した。

5 班別自主行動実施率

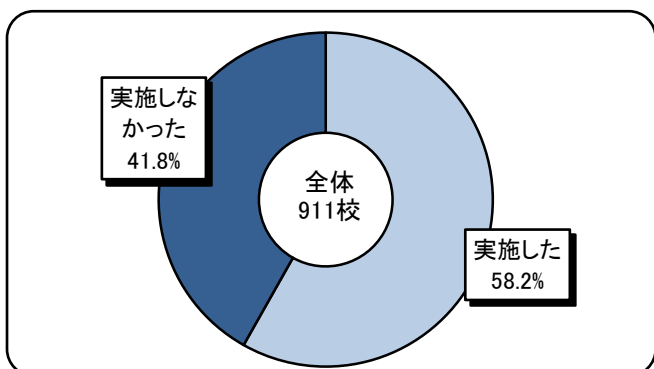


今回も80%を超え、全体で86.9%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2011(平成23)年度が82.8%、2012(平成24)年度が80.3%、2013(平成25)年度81.5%、2014(平成26)年度86.2%、前回2015(平成27)年度は87.1%であった。

「主体的・対話的で深い学び」が求められる新学習指導要領のもと今後も多くの学校が、体験学習との関連も含め班別自主行動を取り入れていくと考えられ、的確な目標設定がますます重要となるだろう。

6 体験学習実施率



体験学習実施率は、全体で58.2%(前回調査67.4%)と9.2ポイント大幅に減少した。要因の一つに体験学習に費やすことのできる費用が少なくなっていることがあると思われる。

新しい学習指導要領の改訂の柱として「主体的・対話的で深い学び」との方向性が示されている。「主体的・対話的で深い学び」を構築するには今後修学旅行においても今まで以上に班別自主活動や体験学習の目的を明確にしておくことが重要で充実を図る必要がある。